

Mitsui Fudosan

三井不動産 Story

彼女が浴衣に着替えたら。

日本橋を訪れる外国人観光客が増えている。銀座にも東京駅にも近いわりに、観光の匂いよりも伝統の匂いのほうが強いからだろうか。この街を歩くと、ひとが何に惹かれるのかがわかる気がする。COREDO室町の地下にある日本橋案内所。ここには外国人スタッフがいます。アリア・カーターもそのひとりだ。浴衣の似合う彼女の話を聞いて驚いた。自分の言葉でちゃんと案内ができるように日本橋の老舗をまわっているのだそう。案内所で販売するぬれもの入れが縁で浴衣を扱う堀井さんとアリアの交流がはじまった。伝統を大切にしているこの町の人たちが勉強熱心なアリアを受け入れている様子を見ると人は、外見や言葉などではなく、その人そのものを見ているのだとうれしくなる。文化の交流というのは、人間の交流のことなのだ。堀井さんの反物でつくった浴衣もどこか嬉しそうに見えた。日本橋案内所には老舗の商品が並んでいる。そのひとつひとつを手にとって、彼女が自分の言葉で説明をしてくれる。不思議だ。外国のひとの目を通して、もういちど自分の文化を見つめると、大切にしなければいけないものにふと気がつかされたりする。私たちの文化のなかの美しいものは普通の毎日のなかに溶け込んでいることが多い。「日本のかたがいらっしゃったときに私が日本語で声をかけるとびっくりされることが多いんです」アリアが笑う。こういう風景がこれから増えていくのか。優しくて幸福な風がひとつ吹いた。

いい街には、物語がある。

